

第5回尖石縄文文化賞

受賞者：堀越正行

尖石縄文文化賞条例にもとづく、同賞の選考委員会は、矢崎和広茅野市長の諮問を受け、委員4名の出席の下に、8月31日、尖石縄文考古館で行われた。

今回、選考・審査の対象となったのは、自・他薦を含めて、個人4件、団体1件であった。候補者の内訳は、年齢的には40歳代から70歳代におよび、研究者としての所属機関や、その研究歴など多彩で、また寄せられた「受賞の対象となる研究及び活動の業績」についても、宮坂英式が尖石遺跡の発掘や研究をつうじてめざした、縄文時代の歴史の本質に迫る、すぐれた研究と活動を示すものであった。このことは、本年第5回目を迎えた本賞の制定の趣旨が、広く学界等一般に周知された結果として、誠に喜ばしいことである。

こうしたすぐれた候補者を得て、選考委員会は慎重な審議を重ねた結果、第5回尖石縄文文化賞の受賞者として、堀越正行氏（千葉県）を、全会一致で推薦することに決定した。

同氏は大学院修了後、千葉県市川市に就職し、市立市川博物館（現市立市川考古博物館）の開館準備に携わり、開館後は学芸員として考古学の普及活動を行ってきた。文化財担当にあっても曾谷貝塚の発掘調査を担当し、重要性を市民やマスコミに説く中で、開発は認から保存に方針転換させ、その結果、遺跡は国史跡に指定された。現在は、市立市川考古博物館の館長として運営に携わっている。

縄文時代の貝塚や土坑など、遺跡や遺構に関する著書・論文も多いが、とりわけ1998年に発行された『考古学を知る事典』（共著）は、一般市民から研究者までを対象とした必携の書として評価される。

宮坂英式の学問的精神にも深くつうじ、茅野市が本賞を制定した意義にそった、まことにふさわしい受賞者である。

宮坂英式記念尖石縄文文化賞選考委員会

委員長 戸沢充則



第5回受賞者 堀越正行氏